

令和5・6・7年度 学力向上推進拠点校指定事業（2年次）中間報告会

10月31日（木）に中間報告会を行い、義務教育課、北九州教育事務所、直方市教育委員会をはじめ、北九州教育事務所管内の小中学校より89名の先生方に参加していただきました。

学年別授業分科会、研究協議会、連絡協議会の中でいただいた多くの貴重なご意見を参考にし、来年度の最終報告会に向けて本校の取組をさらに充実させていきます。

<研究主題>

意欲的に学び、思考・判断・表現できる生徒の育成

～のおがた授業モデルと効果的なICT機器の活用による授業改善を通して～

<研究の視点>

【着眼1】単元や学習過程における、学習意欲を喚起するための工夫

【着眼2】「一人学び」や「協働学び」における、自分の考えをつくり、広げたり、深めたりするためのICT機器の効果的な活用

☆ 公開授業の概要 ☆

※学習指導案は後日に掲載します。

【1年3組 美術科】

○単元名 模様のデザイン

○主眼 主題を基に模様の構成を行う活動を通して、形や色の配置を工夫した効果的な表現の構想を練ることができるようにする。

【着眼1】同じ絵柄でも構成の仕方によって効果的な表現ができることをイメージさせるために、絵柄をただ並べた時と、絵柄の構成を意識して模様にした時の印象の違いを感じ取らせる。

【着眼2】表現の幅を広げさせるために、パワーポイント内で行える「大きく」「小さく」「回転」「反転」などの表現方法を確認し、制作の際に活用させる。（活動の効率化）

【1年5組 理科】

○単元名 身近な物理現象（光の性質）

○主眼 光の反射の規則をもとに、光の道筋を作図する活動を通して、自分の全身を映すために必要な鏡の大きさを考え、説明できるようにする。

【着眼1】生徒の学習意欲をもたせるために、小さな鏡と姿見の鏡の前に立たせ、「全身を映すためにはどれくらいの大きさの鏡が必要だろうか」という課題を提示する。

【着眼2】「一人学び」において、生徒が考えをつくるときの手立てとするために、レベル別のヒントカードをロイロノートで配布する。（情報の整理）



【1年：美術科】

タブレットを使って、絵柄をコピーし、回転させたり重ねたりしながら、自分のテーマに沿って模様を考えています。



【1年：理科】

タブレットのカメラを通して鏡に映った人型のイラストの姿から、頭から足先まで見える鏡の大きさを計測しています。

【1年2組 国語科】

○単元名 筋道を立てて『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ

○主眼 5つの観点と各段落との関係について考える活動を通して、文章の構成や展開、表現の効果をもとに、根拠を明確にして筆者の工夫について説明することができるようにする。

【着眼1】学習意欲を喚起するため、仮説が証明されたことに納得できる理由を問いかける。

【着眼2】「協働学び」において、論の展開やその効果についての班員の意見を集約したり、考えを深めたりするため、班ごとの共有ノートを用いて考えをまとめさせる。(考えの共有)

【2年5組 外国語科 (英語)】

○単元名 Unit4 Homestay in the United States (NEW HORIZON English Course 2)

○主眼 ChatGPTでAIと会話の練習をする活動を通して、助動詞を活用して日本の習慣やマナーについて3往復以上の会話ができるようにする。

【着眼1】活動の目的や相手意識をもって課題に取り組ませるために、授業の最初に海外の人がホームステイに対して不安に思っている動画を視聴させる。

【着眼2】英語で話す時間を増やすことや、自分のペースで学習を行うことを目的として、ChatGPTでAIと話す活動を行わせる。(活動の効率化)

【2年1組 数学科】習熟度別少人数授業

○単元名 一次関数

<Aクラス>

○主眼 移動する二人の出会う場所を調べる活動を通して、問題解決の過程を一次関数の表、式、グラフを用いて説明することができるようにする。

【着眼1】主体的に問題に取り組むことができるように、情報を省略した問題を提示し、どのような情報が不足しているかを生徒に考えさせる。

【着眼2】自分の考えをもつことができるように、前時の学習内容(ロイロノートの提出箱)を参考にして考えさせる。(データの蓄積)
より数学的な表現を用いた解説に繋げるために、ロイロノートに提出された解説を紹介し、良い点や不足している点を確認する。(考えの共有)

<Bクラス>

○主眼 移動する二人が出会う時間と場所を調べる活動を通して、事象を一次関数として捉え、グラフに表して交点の座標をもとに考察できるようにする。

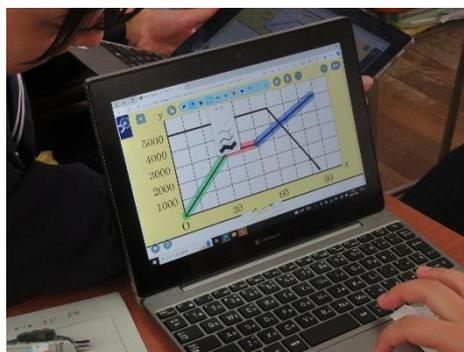
【着眼1】生徒に学習意欲をもたせるために、視覚的に理解しやすいグラフの学習にしぼり、既習事項(原点から一直線の比例表現)では表すことができない移動を題材とする。

【着眼2】時間と場所がわかればグラフ化することができることに気付かせるために、デジタル教科書の動画を活用し、移動する人物にともなってグラフ上の点も移動する様子を見せる。(情報の整理)



【2年：外国語科 (英語)】

ChatGPTを使って、AIと英会話の練習をし、外国人に日本の習慣についての説明が伝わるか確認しています。



【2年：数学】

AさんとBさんが出会う場所を求める方法を説明するために、タブレットを使ってグラフを作成しています。

【2年3組 国語科】

○単元名 論理を捉えて「異なる立場から考える」

○主 眼 同じ立場の人と話し合う活動を通して、意見に対する適切な根拠はどのようなものか理解できるようにする。

【着眼1】 意見に対する根拠の適切さを実感させるために、意見と根拠が結びついていない例を示す。

【着眼2】 「協働学び」において、根拠の適切さについての班員の意見を共有したり、班員の意見から自分の考えを深めさせたりするため、共有ノートを用いて考えをまとめさせる。(情報の整理)

【3年4組 外国語科 (英語)】

○単元名 Unit4 Be Prepared and Work Together (NEW HORIZON English Course 3)

○主 眼 ALT にハザードマップについて説明できるようにするために、発表原稿を作成する活動を通して、間接疑問文を用いて避難場所や地図記号についてより詳しい情報を入れた説明文を作ることができるようにする。

【着眼1】 課題に対する意欲を高めることができるようにするために、日本に住む外国人が、災害時に困ったことについて話している動画を視聴させる。

【着眼2】 「協働学び」において、各自がつくった原稿を改善することができるようにするために、ロイロノートの共有ノートを活用し、班で原稿を共有し、アドバイスを考えさせる。(情報の整理)

【3年6組 社会科】

○単元名 現代社会を捉える枠組み (夏休みの適切な日数を考えよう)

○主 眼 「夏休みを何日間にするのが妥当なのか」という話し合いを通して、社会生活における物事の決定の仕方について他者の意見も踏まえ、多面的・多角的に考察し、表現することができるようにする。

【着眼1】 生徒に学習意欲をもたせるために、生徒自身に直接関わりのあることを考えさせ、生徒が出した意見を校長先生に提案することを伝える。

【着眼2】 「協働学び」において、自分の意見を再構築することができるようにするために、生徒が考えた意見をロイロノートに提出させ、他の生徒の考えにも触れさせる。(考えの共有)

【3年3組 国語科】

○単元名 いにしえの心を受け継ぐ「君待つと - 万葉・古今・新古今」

○主 眼 互いが書いた鑑賞文を和歌の中の言葉や表現方法、現代語訳に着目して読み合う活動を通して、和歌に詠まれた心情や情景を想像することができるようにする。

【着眼1】 自分の鑑賞文を推敲する視点をもたせるために、和歌中の言葉に着目させ、同じ和歌を選んだ友達の鑑賞文との共通点や相違点に気付かせる。

【着眼2】 「協働学び」において、多様なものの見方・考え方があることに気づき、表現の幅を広げるために共有ノートを用いて意見を交流し、他者の考え方や表現方法の工夫をお互いに確認できるようにする。(情報の共有)



【3年：外国語科 (英語)】

ALT にハザードマップについて説明するために、間接疑問文を使って作成した英文が、適切かどうかをアドバイスしあっています。



【3年：社会科】

夏休みは何日が妥当かを、資料やグラフを使って、効率と公正の考えのもと合意形成させるために、班員に説明しています。